

埼玉県立自然の博物館研究報告の投稿規定

本研究報告は、自然史と博物館学及びそれに関連する分野の原著論文、総説、短報、資料、その他編集委員会が適当と認めたものを掲載する。投稿者は主に当館職員および当館外部研究者とし、一般投稿者による投稿は、埼玉県または当館所蔵の標本と関連する内容が望ましい。

I 投稿の手続き

1. 投稿予告カードの送付

原稿の投稿に先立ち、別紙に定める投稿予告カードを埼玉県立自然の博物館研究報告編集委員会（以下、編集委員会）に提出する。

（投稿予告カード・原稿送付先）

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1 埼玉県立自然の博物館 研究報告編集委員会
電子メールの場合 t6604044@pref.saitama.lg.jp（添付ファイルは10MBまで）

2. 初稿の投稿

初稿は、投稿規定に従って作成した原稿1部をコピー1部とともに投稿整理カードを編集委員会に提出する。なお、Eメールによる提出も認める。

3. 原稿の受付及び掲載の可否

原稿は、本投稿規定に則った場合に限り受付する。投稿規定に反する原稿は、編集委員会が投稿者に返却する。

編集委員会は、受付後及び査読修正返納時に原稿を審査し、掲載の可否を定める。この際、外部の専門家委に依頼し、その原稿に関する意見を求めることがある。個々の原稿と対応させた形で審査者名及び審査内容については、これを公表しない。

編集委員会は、審査の結果、著者に修正を求めて原稿を返却することがある。なお、著者は、指摘された箇所を修正し、期限までに再提出する。修正を行わない場合は、その理由を付して再提出する。

掲載不適当と認めた原稿については、その理由を明らかにした文章を付して著者に原稿を返却する。

4. 最終稿の送付

掲載の予告を受けた後、投稿者は最終原稿が入力されている電子媒体（CD、DVD等）及び原図を編集委員に提出する。この時、電子ファイル上でイタリック体、ボールド体を明示する。なお、Eメールによる提出も認める。

5. 校正

著者校正は初校のみとする。再校正以後は編集委員が行う。なお、校正は誤字脱字、図表の品質や大きさの変更のみとし、大きな書き換えや新たな付け加えは原則として許されない。

6. 原稿の返却

原則として、掲載された原稿や図、図版、表などは返却しない。

7. 著作権

埼玉県立自然の博物館研究報告に掲載された論文の著作権（著作財産権（Copyright））は、埼玉県立自然の博物館に帰属する。掲載された論文は研究報告で出版するほか、当館Webページおよび外部の学術論文データベースサイトに掲載する。出版後、別刷りPDFを著者に配布するが、このPDFの再配布は著者の自己責任とし、ウェブサイト等で自由に公開しても良いものとする。

II 原稿の種類

原著論文 (Original Article) : 自然史分野に関する新たに得た学術的知見をまとめ、考察した未発表のもの（12ページ以内）

総説 (Review) : 自然史分野の論文や学説などを総括、解説、あるいは考察したもの（16ページ以内）

短報 (Short Report) : 新事実, 新産地などの簡単な報告など (4ページ以内)

資料 (Miscellaneous) : 考察を加えない生のデータ, 新知見を有する技術開発の報告, 調査, 研修, 学会参加などの報告, 資料目録, 教育普及活動, 意見など.

その他 : 編集委員会が認めたもの

III 原稿の体裁

1. 記述方法は, 和文または英文とする. ワードプロセッサ等によりA4用紙に横書きとし, 和文・英文とも字体11ポイント, 20行40字で作成する. 英文の場合には, ダブルスペースとする.
2. 上下には3cmの余白を設け, ヘッダーを用いて各ページの右上に著者名を入れる.
3. 原稿は引用文献の最終ページまで連続したページ番号をつける. また, ページごとに行番号をつける.
4. 原則として, 脚注は用いない.
5. 原著論文の長さは刷り上がり12ページ以内, 総説は16ページ以内とする (本報告の刷り上がり構成は, 43行1段24字の2段組). これを超過するものは, 編集委員会が適当と認めた場合は掲載することがある.

IV 原稿の構成

1. 表題・著者名 (1ページ目)
 - ・表題及びランニングタイトル (和文の場合20字以下, 英文の場合40字程度), 著者名, 所属とその所在地を明記する. なお, Eメールアドレスの掲載を希望する場合は, 所在地の後に追記する.
2. 要旨・キーワード (2ページ目)
 - ・原著論文, 総説には, 内容を要約した要旨をつける (和文は400字以内, 英文は150単語以内).
 - ・表題に含まれない内容を適切に表す語句6つ以内のキーワードをつける.
3. 本文 (3ページ目以降)
 - ・本文は, 原稿のページを改めて書き始める.
 - ・文章はひらがな漢字まじりの口語体で書く. 現代仮名遣いを用いる. 漢字は当用漢字とする. ただし, 固有名詞や慣用語はこの限りではない.
 - ・句読点等は全角で, . ; : 「」 () ” ” –などを用いる.
 - ・ひらがな・カタカナ・漢字は全角文字, ローマ字と数字は半角文字とする.
 - ・和文中に半角アルファベットを用いた場合は, その前後に半角スペースを挿入する.
 - ・本文の構成は原則として, はじめに, 研究方法, 結果, 考察, 謝辞, 引用文献とする.
 - ・動物・植物名の和名はカタカナ書きとする. 同じ学名の二度目以降は混同の可能性のないかぎり属名を略記し, 命名者名は省略する.
 - ・単位は国際単位系 (SI単位系) を用いる. 数値と単位の間には, 半角スペースを入れる.
4. 表, 図, 図版
 - ・次の3種に分け, それぞれ番号をつける.
 - 表 (Tab.) : 本文中に入れる記号, 文字, 罫線からなるもの
 - 図 (Fig.) : 本文中に入れる図及び写真
 - 図版 (Pl.) : 独立のページとして印刷される写真. 図版として示すべき十分な理由があり, かつ原図が鮮明なものに限る. なお, 図版は裏白にはせず, ページ数に含める.
 - ・表, 図, 図版は本文とは別紙とし, 挿入箇所を本文原稿の欄外に記入する. 図表の説明 (キャプション) は, 別紙にまとめて書く.
 - ・描画ソフトなどを用いてパソコンで作成する場合のファイル形式は, 線画のみの場合はTIFFまたはPNG, 写真などを用いた場合はJPEGとする. 図の作成時には, 300dpi以上で保存することが望ましい. 手描きの場合は, 著者の責任において電子化し, デジタルデータとして提出すること.
 - ・表は, Microsoft Excelのxlsもしくはxlsx形式で保存・提出することとする.
 - ・図の大きさは, 原則として1ページに印刷できるものに限る (最大243 x 168 mm以内),

幅79.5 mmもしくは168 mmとすることが望ましい（2段組の1段分もしくは全幅）。

- ・資料に関する図や実物写真にはスケールを入れる。
- ・各図表の右上に、著者名、表の番号、ランニングタイトルを入れる。
- ・印刷後の図表及び図版は、モノクロとする。カラー画像は、グレースケールに変換して投稿する。
- ・表および図は原則として折込まない。

※ PCを用いた図の作成に関して、使用するソフトウェアや保存フォーマットなどに関し不明な点は、編集委員会にお問い合わせください。

5. 引用文献

- ・引用文献は、本文中に引用されたものだけに限り、かつ引用されたものを全て記す。
- ・引用文献は、文章末に一括して著者のアルファベット順に並べて記述する。同一著者は年代順に並べる。また同一著者で同一年のものについては、年号のあとにa, b・・・のようにアルファベットを付して区別する。各文献は次の形式で順次記載する。

(1) 雑誌の場合：著者名（姓前名後），年号．論文表題．掲載雑誌名（英文誌はイタリアック体），巻（ゴチック体）：ページ．

※ 雑誌の号数は括弧に包んで表示するが、巻が通じページである場合には号数を引用しない。

(2) 単行本の場合：著者名（姓前名後），年号．表題．ページ数，発行所，発行地．

(3) オンライン上の電子資料の場合：著者名または団体名，題名．アクセスした日付，アドレス（URL）

(例) 福田 理, 1963. 春日部層序試錐の抗井地質層序. 地調月報, 14 : 95-96.

藤田至則, 1972a. 日本海の起源. 海洋科学, 4(3) : 14-20.

藤田至則, 1972b. 日本海のおいたち. 国土と教育, (14) : 32-38.

Minamiya, Y., Hayakawa, H., Ohga, K., Shimano, S., Ito, T. M. & Fukuda, T., 2011. Variability of sexual organ possession rates and phylogenetic analyses of a parthenogenetic Japanese earthworm, *Amyntas vittatus* (Oligochaeta: Megascolecidae). *Genes, Genet. Syst.*, 86: 27-35.

水谷伸治郎・足立 守, 1987. 碎屑性堆積物. 日本の堆積岩. pp. 29-84, 岩波書店. 東京.

Weaver, J. E. & Clements, F. E., 1929. *Plant Ecology*. 520 pp., McGraw-hill, New York.

北川博道, ゴウの来た道. Online. Available from internet <http://www.mammot.hkitagawa.jp/product/akebonoelephant.html> (accessed 2012-9-26)

- ・日本語・英語以外の言語で書かれた論文を引用した場合には、文献リストの論文名末尾にカッコ書きで付記する。例：(in Russian with English abstract)
- ・本文中での文献引用は、次の例に従う。また、3名以上のものについては「・・・ほか」または「・・・*et al.*」とする。

(例)

北沢・小林 (1958) によれば・・・

・・・報告されている (恩藤ほか, 1951, 1953a ; Kitagawa & Sakamoto, 2013 ; Kitazawa *et al.*, 1965) .

6. 他言語による論文

- ・投稿原稿の末尾に改ページして、本文とは異なる言語（本文が和文の場合は英文、英文の場合は和文）を用いて表題、著者名、所属・所在地を明記する。
- ・原著論文、総説には、翻訳した要旨をつける。この時、要旨の内容は、和文・英文とも完全に一致したものとする。
- ・翻訳したキーワードをつける。この時、キーワードは和文・英文とも完全に一致したものとする。